

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 6 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870102955		
法人名	医療法人 松岡整形外科		
事業所名	グループホーム たいさんじ		
所在地	松山市太山寺町950-7 (電話) 089-978-5517		
管理者	白石 かおり		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 11 月 20 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 6 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 15 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	16.6 人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	11,500 円	
敷金	有( )円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 15 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護 1		名	要介護 2		7 名
要介護 3		4 名	要介護 4		5 名
要介護 5		2 名	要支援 2		名
年齢	平均 83.7 歳	最低 59 歳	最高	94 歳	

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅が点在する田園地帯に建ち、ホーム前の道路沿いに小学校があるため登下校時には子どもたちの声が聞こえ、時には気軽に立ち寄ってくれる場所となっている。基本理念を踏まえ、毎月具体的目標を職員が話し合い、理念の実践に努めている。介護計画については、センター方式を取り入れたアセスメントを基に職員が話し合い、具体的かつ個別の計画を立て、定期的および変化に応じて見直し、日々ケアの実践に努めている。職員は元気に和気あいあいと、利用者と共に過ごし、馴染みの関係を築いている。2週間毎に主治医の往診があり、健康維持にも十分配慮している。

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

外部評価の結果を活かし、ユニット毎に毎月理念の具体的目標の作成、改善計画表の作成、苦情申立て先の書類への明示と家族への説明、介護計画の見直し表作成、金銭出納帳記帳の整備など、着実に改善に取り組んでいる。自己評価で出された課題の改善にはまだ十分に取り組んでいるとは言えない。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

評価の意義を理解して職員全員が取り組み、管理者がまとめて作成している。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

市職員、地域代表者、利用者及び家族などをメンバーとして、2か月から3か月毎に開催している。ホームの取り組みや家族会の報告等を行い、意見交換をして、参加者から出された意見や要望をサービスの向上に活かすとともに地域との交流を進めているが、参加者がやや固定化しているため、地域住民、警察、消防署などの参加もお願いし、より有意義な会となることを期待する。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

殆どの家族が毎月訪問されており、意見や要望を直接聞くことができている。また、家族会としての要望も出され、それらを運営に反映している。苦情申立てについては「福祉サービスの苦情解決」資料を家族に渡して説明している。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

公民館主催の運動会やお遍路さんの接待に参加したり、祭りの神輿がホームに来てくれている。また、小学校の体験学習を年数回受け入れるなど、地域との連携を図っている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム たいさんじ

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)  
氏名 白石 かおり

評価完了日 平成 20 年 9 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 利用者と職員が一緒に考えて、地域密着型の理念を作成している。  (外部評価) 地域密着型サービスの重要性を認識して職員全員で話し合い、利用者の意見も聞きながら基本理念を作成している。理念は常に確認できるよう、玄関に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 事業所の玄関に表示し、出勤時に必ず目を通して。また、理念を念頭に季節ごとに具体的な目標を立て、実践している。毎月ミーティングで実施状況を確認し、検討している。  (外部評価) 理念についてカンファレンスで話し合い、日々のケアの振り返りを行っている。各ユニット単位で具体的な目標を1～2か月毎に決め、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 来訪された方が解りやすいように、玄関先に掲示している。季節ごとに発行している『たいさんじ通信』にも毎回載せ、家族や地域に配布している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホームの前が通学路になっている。掃除や散歩・買い物の際に、登下校の子供たちや近所の人と気軽に声を掛け合っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 公民館主宰のお接待や運動会に声を掛けていただき、交流をしている。 小学校の総合学習の受け入れをしている。  (外部評価) 公民館主催の運動会やお遍路さんの接待に参加したり、祭りの神輿がホームに来てくれている。また、小学校の体験学習を年数回受け入れるなど、地域との交流に努めている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) グループホームが、介護や福祉について気軽に話しや相談ができる場所になるよう、運営推進会議で話している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を職員全員で行い、外部評価の結果を報告し、改善に取り組んでいる。改善計画書を作成し取り組み内容を記録している。  (外部評価) 評価の意義を理解したうえで、自己評価に職員全員が取り組み、管理者がまとめて作成している。改善への取り組みは今後の課題である。外部評価については改善計画表を作成し、基本理念を踏まえたユニット単位の具体的な目標作成、苦情申立て先の資料配布、介護計画の見直し表の作成、金銭出納簿の整備など、改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの取り組み等を報告し、多方面の方の意見をサービス向上に活かしている。  (外部評価) 市職員、地域代表者、利用者及び家族等をメンバーとし、2～3か月毎に開催している。ホームの取り組みや家族会の報告をして、参加者から出された意見や要望をサービスの向上に活かしている。参加者はやや固定化している。	※	地域住民、警察や消防署など各方面に参加を呼びかけ、災害時の協力をお願いし、さらに地域との交流を進めていくことを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市が主催する研修会等に出席している。また、市職員の実習を受け入れている。  (外部評価) 3か月毎に開催される利用者連絡会に参加したり、地域包括支援センター職員と行き来する機会をつくっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員が制度を十分に理解するために、事例のある解りやすい資料を作成し学ぶ機会を持っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングや申し送り時に、対応や声掛けについて話し合いをし、虐待防止の徹底に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて丁寧に説明をし、家族の理解を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の話をじっくり聞き、暮らしに活かしている。運営推進会議に出席してもらい、発言出来るようにサポートをしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族の来訪時には、日常生活の様子や健康状態の報告をしている。状態変化時にも、随時連絡を取り合っている。 預かり金出納帳へは、店名と購入品を記入し、家族に毎月出納帳のコピーを渡している。		
			(外部評価) 家族の来訪時に本人の暮らしぶりや健康状態を報告し、金銭出納簿はコピーを渡している。定期的に来訪することが難しい遠方の家族には、電話で報告している。また、季刊のホーム便りもその都度渡したり送付している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に話を聞いたり家族会を開催し意見を出してもらっている。家族の方全員に、家族会の報告書を配布している。 苦情相談窓口の公的機関名についても、資料を作成し家族の方全員に配布をしている。		
			(外部評価) 殆どの家族が頻繁に訪問してくれており、直接意見や要望が聞けている。また、家族会からも要望が出されており、出された意見や要望は運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングで話し合い、職員の意見や提案を聞くようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の暮らしに応じたシフトを組んでいる。管理者・計画作成担当者は通常のシフトには入らず、緊急時や夜間に対応できる体制を取っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動・離職・新しい職員が入る時は、引継ぎを十分に行い利用者へ配慮をしている。  (外部評価) 異動や離職を最小限に抑え、異動や離職の際には利用者への紹介を工夫してダメージを防ぐよう配慮し、新旧職員と一緒に業務にあたるなどして引継ぎをスムーズにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外での研修へ参加できるように研修情報を知らせ、運営者が費用の負担をしている。  (外部評価) 研修内容を全職員に知らせ、希望者が参加できるよう勧め、参加者は受講内容を報告している。運営者は参加費を負担したり出張扱いとし、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加をしている。当ホームの主催するイベントに招待し、他事業所のイベントにも参加をしている。  (外部評価) 県グループホーム連絡協議会の相互研修に職員が参加し、情報交換を行っている。秋祭りに同業者を招待したり、地域のデイサービスの春祭りに利用者と一緒に訪問するなど、徐々に交流を図っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 日常の勤務時間帯には、一時間の休憩が取れるように配慮している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、職場へ来て職員に声を掛けている。職員の資格取得への支援を行なっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談があった時は、本人に会いに行ったりグループホームへ来てもらったりして話を聞くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談があった時は、家族と会ったりグループホームへ来てもらったりして話を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談内容により、必要な支援をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用前は、本人と家族にグループホームへ見学に来てもらっている。本人の見学が難しい場合は、本人に会いに行っている。  (外部評価) 管理者が事前に訪問して本人及び家族と話し合ったり、見学してもらいながら、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 食事の準備や片付け・掃除・洗たく等、出来る事や得意な事を一緒に行っている。昔ながらの習慣や慣わしを教えてもらっている。  (外部評価) 職員は、人生の先輩である利用者と一緒に過ごしながら、行事やしきたりなど昔のことを教わったり、料理の味付けを教えてもらっている。また利用者から感謝やねぎらいの言葉をかけてもらうなど、学んだり、支え合う関係を築いている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の暮らしの出来事や本人の思い・希望を家族に報告・相談し、協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族の事情を踏まえ、本人の日頃の状態を報告・相談し、本人と家族の関係がより良くなるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知り合いの人にはグループホームへ来てもらうようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 気分や状態の変化を注意深く見守り、利用者同士の関係を把握し交流ができるように配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用が終了しても家族・本人の了解を得て時々訪ねている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、言葉や表情から把握するよう努めている。家族や関係者からも情報を得るようにしている。  (外部評価) 機会あるごとに会話することを心がけ、困難な場合は本人の表情を見ながら、また家族から情報をもらいながら本人本位に検討している。それらの情報を生活記録に記入し、職員は情報を共有して利用者の思いや意向を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人自身の語りや家族の面会時に、たずねたりして把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の言動から一人一人の生活リズムを理解し、把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の思いや家族の要望を開きスタッフで話し合い、利用者本意の介護計画を作成している。  (外部評価) センター方式の一部を取り入れたアセスメントを基に、利用者の担当職員を中心に職員が話し合い、家族に意見をもらいながら、それらを反映した介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 三ヶ月に一度見直しを行っている。状況変化があればその都度カンファレンスを開き介護計画の見直しをしている。  (外部評価) 毎日、個人記録や申し送りノートなどで確認し、3か月毎に見直しを行い、それ以前に変化が生じた場合には現状に即した新たな計画を作成して、家族のサインをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 心身状況や会話などの記録は、個別の生活記録に記入し、申し送りノートも活用しながら情報の共有をしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 <sup>2</sup> の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人・家族の状況に応じて、通院の付き添いや送迎の支援をしている。  (外部評価) 緊急時のかかりつけ医の受診に同行している。本人及び家族の要望に応じた柔軟な支援をしていく姿勢がある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議の開催で、地域の方と意見を交わし地域活動へ参加をしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向や必要性に応じて、訪問理美容や訪問歯科を利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に出席してもらい交流をしている。また、地域包括支援センター主催の事業所連絡会に出席している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医と連携をとり、医療が受けられるようにしている。家族と連絡をとり、残薬数や本人の状況などを伝え、受診の支援をしている。  (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医受診を大切に、受診結果をファイルして把握している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医・協力病院などで、認知症に関する診断や治療・相談を受けられるよう支援している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員がおり、微妙な変化を見つけ報告・相談し、日常の健康管理をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院によるダメージを極力防ぐために、度々お見舞いに行き本人・家族・病院関係者と情報を交換している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時や家族会で、看取りについての指針とホームで出来ること出来ないことの説明をしている。状態の変化時は、家族・医師・管理者で話し合い、希望を文書で確認している。  (外部評価) 現段階では終末期の看取りは行っていないが、看取りに関する指針を作成し、本人及び家族に説明している。また、家族会でもホームのできること、できないことを説明して理解を得ている。本人の状態に応じて家族と職員、主治医など関係者が話し合い、方針を共有している。	※	重度化や終末期に向けて、入居時の早い段階から本人及び家族等との話し合いを持つことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 家族にホームで出来ること・出来ないことの説明する。本人・家族の意思の確認とかかりつけ医との話し合いを重ね、納得した最期を迎えられるよう体制を整えている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 自宅やホーム・他の施設から別の居所に移る場合は、本人の情報資料を作成し互いに伝達をしている。住み替え後も連絡や相談をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ミーティング・申し送り時や日々ケアを行う際に、話し合い点検をしている。  (外部評価) 職員はプライバシー確保の重要性を認識しており、ミーティング及び日々の申し送りで点検して、言葉かけや対応には十分配慮している。	※	馴染みの関係が馴れ合いにならないようにしていく。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人の内的世界の話をじっくりと聴いたり表情を見たりして「どうしたいのか」を探り、自分で決め納得して暮らせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し、自分のペースで過ごせるよう支援している。  (外部評価) 一日の基本的な流れの中で、起床や食事の時間、入浴、外出など一人ひとりのペースを大切に、体調や気持ちを考慮しながら、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 季節や天気・その場に応じた装いが出来るように支援をしている。本人の希望で地域の理美容店を利用し、出かけるのが困難な方は、訪問理美容を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の出来る事（調理や盛り付け・後片付けなど）を支援し一緒に行なっている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るように雰囲気作りも大切にしている。  (外部評価) 料理の味見、盛り付けなど利用者と職員が一緒に行っている。食事は会話を楽しみながら和やかに食事し、後片付け等もできる利用者が一緒になっている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ココアやコーヒー・甘い物など好物や好む熱さを把握し柔軟に対応をしている。お酒が好きな方は、入浴後のビールを楽しんでいる。自室に食べ物を置いている方は、傷んでいないか確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けや介助など、本人に合わせた支援をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 昼間の入浴ではあるが、本人の希望を聞き、その時の状況に合わせて支援をしている。  (外部評価) 週3回午後入浴を基本に、一人ひとりの体調やタイミングに合わせて入浴を支援している。苦手な利用者には、声かけを工夫して入浴を楽しめるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の体調や状況にもよるが、日中はなるべく身体を動かすようにし、夜間は室温・寝具・体位に配慮をし、気持ちよく眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 好きな事・得意な事・やりたい事(野菜作り・草引き・戦争体験の語り)をして過ごせるように支援している。  (外部評価) 料理の下ごしらえや盛り付け、庭の草引きや野菜づくりなど、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割の支援をしている。また、誕生日、父の日・母の日、敬老の日をはじめ、花見、芋掘りなど季節ごとの楽しみの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は事業所で行っているが、希望する数名の利用者は、家族と相談し現金を自分で持ち、買い物等を行っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 職員の方から声を掛け、出かけるように支援しているが、出る機会が少ない。  (外部評価) 車いすの利用者が多いが、本人の意向も考慮しながら近所の幼稚園へ散歩に出かけるなどして、地域の方と挨拶を交わしている。年に数回はドライブを兼ねてスーパー等に出かけ、外食を楽しんでおり、利用者の楽しみのひとつとなっている。	※	利用者の意向や状態にもよるが、外に出る機会を増やしていく。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年に数回だが食事会を設け、他の利用者や家族とともに出かけている。 また、墓参りや帰省など家族と共に出かけている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望する方は自ら電話をかけたり、職員が代わりにかけたりしている。家族や知人から電話があったり手紙が届いたら取りついでに手渡したりしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間は定めておらず、都合の良い時にいつでも来てもらうよう話をしている。面会に来られた方には、笑顔で明るく挨拶をし、入りやすく過ごしやすいよう雰囲気作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の心身状況によりやむをえない場合にのみ、家族に説明をし同意を得ている。経過を観察し見直しを行っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵をかけず、出入り自由になっている。  (外部評価) 日中は鍵をかけず、チャイムで対応している。外出する利用者には職員が一緒について行くようにしており、利用者ごとの傾向を把握しながら、安全に留意している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者が過ごす同じ空間で記録などを行い、所在や様子を把握し安全に配慮している。自室や庭で過ごしている方は、時々声を掛け見守りをしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に応じて、本人が持っていたり事務所で預かったりしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) インシデントの内容を職員全員が共有し、利用者の状況によりおこりうる危険を予測し、事故防止に努めている。(個別の食事形態・居室やベッド周りとは共同空間の整理整頓・建物周りの掃除など)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応マニュアルはあるが、定期的な勉強会は滞っている。	※	定期的に勉強会を行う。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的な非難訓練を行い災害に備えている。  (外部評価) 緊急連絡網、防災マニュアルを作成している。年1回消防署の協力のもとで避難訓練を実施し、また年3回は自主的な訓練をユニット毎に実施している。訓練後は反省会を持ち、振り返りを行っている。災害時の備えとして食料品、水、薬など必需品をリストアップし、備蓄している。	※	災害時に地域の協力が得られるよう、日頃から交流に努め、運営推進会議等を通じて協力を依頼していくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクについて家族に説明して話し合い、安全で自由な暮らしが出来るように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状況を把握し、食欲や顔色などの体調変化を早期に発見し、看護師・医師へ報告をする。場合によっては病院受診につなげている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人別に薬の説明書をとじ、いつでも見れるようにして確認をしている。薬の変更時は、申し送りノートへ記入し、職員全員が把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 毎日、排便状況や食事・水分摂取の量を確認している。繊維質の多い食品や乳製品を取り入れ、身体を動かすなどして自然排便できるように取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、一人一人に応じた歯磨きの声掛けを行い、必要な方は介助を行っている。週二回は、職員が義歯を預かり一晩洗浄を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の食事・水分摂取量を記録し、個々の状態に応じて、栄養・水分摂取ができるように支援している。		
			(外部評価) 食事及び水分摂取量を記録し、状態に合わせて調理に工夫したりコーヒー等で水分補給を行い、栄養摂取や水分確保の支援を行っている。献立は職員が栄養バランスに配慮して立てているが、カロリーチェックまでは行っていない。	※	献立を定期的に専門家にチェックしてもらい、栄養バランスやカロリーを把握する取組みを期待したい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防対策のマニュアルを作成している。手洗い・うがいを行い、利用者・職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日買い物へ行き、新鮮な食材を使用している。冷蔵庫・流し台等の清潔に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに椅子やプランターを置き、花を植えている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 明るく開放的に作っており、窓を大きくとっているので庭など外の様子が良く見え、季節を感じられる。台所からは料理を作る音や匂いがし、夏には蕨簾を立てている。  (外部評価) 居間は広い庭に面しており、ソファを備えゆったりくつろげる。気になる匂いもなく、カーテンで光を調節している。ホーム全体の雰囲気家庭的で温かい空間である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓やリビング・和室・廊下など一人一人の落ち着く場所があり、思い思いに過ごしている。また、その場所で過ごせるように配慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人や家族と相談し、可能な限り使い慣れたものや家具を持ち込んでもらい使用している。  (外部評価) 居室入口には一人ひとり好みの暖簾やカーテンをかけ、テレビや鏡台など使い慣れた物、家族や本人の写真、手芸品などを飾り、シンプルではあるが本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 掃除の時など随時換気をし、利用者の状況に応じて、室温調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差をなくして廊下や入り口を広く取り、動きやすくしている。トイレは、車椅子・歩行器のままで入れるスペースにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各居室には、本人が見やすい高さに名札をかけ分かりやすくしている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭には季節の花や野菜を植え、収穫し調理するなど楽しんでいる。玄関や屋根付きの駐輪所に長椅子を置き、涼んだり景色を眺めたりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	利用者とは話をし、言葉や表情から思いを判断できる事も多いが、全てを把握するには時間をかけていく必要がある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	自ら自由に外に出て過ごしたり、職員と一緒に散歩やドライブに出かけたりしている
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	リビングや自室で新聞や本を読み、庭の草引きをしたりと思いつきに自分のペースで暮らしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の状態に応じ、日常会話や一緒に調理・掃除・洗濯等を行っている時、生き生きとした表情や姿が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の状態にもよるが、スーパーへ買い物に出かけたり、海や山へドライブに出かけたりしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者それぞれにかかり付け医がいる。またホームに看護師を配置し、異常の早期発見に努め、協力医療機関と連携をとっている。緊急時には、母体の医師がすぐに駆けつけている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その時々々の状況や要望により判断を行い、安心して暮らせるように常に考えながら支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	電話や面会時、家族会等において、利用者の近況や日常生活について相談・報告をし、意見や要望も聞いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	昔馴染みの方や入居してからの馴染みの方等、訪ねてきている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議に、公民館館長・民生委員の方に出席していただき、事業所主催のお祭りに協力していただいた。また、公民館主催のイベントにも声を掛けていただいている。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ストレスや身体的な負担等があるが、明るく朗らかに働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ほぼ満足していただいていると思う。しかし、共同生活の中で我慢をしていることもあると思う。少しずつでも解消できるように取り組んでいる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	おおむね満足していただいていると思うが、行き届かない所もある。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- 利用者の方の「感情を閉じ込めない」という事を大切に、笑う・泣く・怒るといった感情を自由に出せるような環境の提供を心がけている。
- 同じ空間で共に過ごし、教え教えられ・支え支えられる関係を大事にしている。
- グループホームは、田園の中にあり静かな環境。近くにスーパーや団地があり、ホームの前が通学路になっている。
- 小学校との交流もあり、生徒が学校帰りなど気軽に立ち寄っている。
- 日々、心身状況の観察を行い、早期に異常を発見し、医療関係者へ迅速に連絡を取り、重度化の阻止に努めている。
- それぞれ利用者の希望を探り尊重し、家族や地域の方と協力し合い暮らしを支えている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームたいさんじ

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)  
氏名 白石 かおり

評価完了日 平成 20 年 9 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 利用者と職員が一緒に考えて、地域密着型の理念を作成している。  (外部評価) 地域密着型サービスの重要性を認識して職員全員で話し合い、利用者の意見も聞きながら基本理念を作成している。理念は常に確認できるよう、玄関に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 事業所の玄関に表示し、出勤時に必ず目を通してしている。理念に基づき、半年目標と1ヶ月目標を立て実践している。毎月ミーティングで実施状況を確認し検討している。  (外部評価) 理念についてカンファレンスで話し合い、日々のケアの振り返りを行っている。各ユニット単位で具体的目標を1～2か月毎に決め、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 来訪された方が解りやすいように、玄関先に掲示している。季節ごとに発行している『たいさんじ通信』にも毎回載せ、家族や地域に配布している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホームの前が通学路になっている。掃除や散歩・買い物の際に、登下校の子供たちや近所の人と気軽に声を掛け合っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 公民館主催のお接待や運動会に声を掛けていただき、交流をしている。 小学校の総合学習の受け入れをしている。  (外部評価) 公民館主催の運動会やお遍路さんの接待に参加したり、祭りの神輿がホームに来てくれている。また、小学校の体験学習を年数回受け入れるなど、地域との交流に努めている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) グループホームが、介護や福祉について気軽に話しや相談ができる場所になるよう、運営推進会議で話している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を職員全員で行い、外部評価の結果を報告し、改善に取り組んでいる。改善計画を作成し取り組み内容を記録している。  (外部評価) 評価の意義を理解したうえで、自己評価に職員全員が取り組み、管理者がまとめて作成している。改善への取り組みは今後の課題である。外部評価については改善計画表を作成し、基本理念を踏まえたユニット単位の具体的な目標作成、苦情申立て先の資料配布、介護計画の見直し表の作成、金銭出納簿の整備など、改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの取り組み等を報告し、多方面の方の意見をサービス向上に活かしている。  (外部評価) 市職員、地域代表者、利用者及び家族等をメンバーとし、2～3か月毎に開催している。ホームの取り組みや家族会の報告をして、参加者から出された意見や要望をサービスの向上に活かしている。参加者はやや固定化している。	※	地域住民、警察や消防署など各方面に参加を呼びかけ、災害時の協力をお願いし、さらに地域との交流を進めていくことを期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市が主催する研修会等に出席している。また、市職員の実習を受け入れている。  (外部評価) 3か月毎に開催される利用者連絡会に参加したり、地域包括支援センター職員と行き来する機会をつくっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員が制度を十分に理解するために、事例のある解りやすい資料を作成し学ぶ機会を持っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングや申し送り時に、対応や声掛けについて話し合いをし、虐待防止の徹底に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて丁寧に説明をし、家族の理解を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の話をじっくり聞き、暮らしに活かしている。運営推進会議に出席してもらい、発言できるようにサポートをしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族の来訪時には、日常生活の様子や健康状態の報告をしている。状態変化時にも、随時連絡を取り合っている。預かり金出納帳へは、店名と購入品を記入し、家族に毎月出納帳のコピーを渡している。 <hr/> (外部評価) 家族の来訪時に本人の暮らしぶりや健康状態を報告し、金銭出納簿はコピーを渡している。定期的に来訪することが難しい遠方の家族には、電話で報告している。また、季刊のホーム便りもその都度渡したり送付している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に話を聞いたり家族会を開催し意見を出してもらっている。家族の方全員に、家族会の報告書を配布している。苦情相談窓口の公的機関名についても、資料を作成し家族の方全員に配布をしている。 <hr/> (外部評価) 殆どの家族が頻繁に訪問してくれており、直接意見や要望が聞けている。また、家族会からも要望が出されており、出された意見や要望は運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングで話し合い、職員の意見や提案を聞くようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の暮らしに応じたシフトを組んでいる。管理者・計画作成担当者は通常のシフトには入らず、緊急時や夜間に対応できる体制を取っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動・離職・新しい職員が入る時は、引継ぎを十分に行い利用者へ配慮をしている。  (外部評価) 異動や離職を最小限に抑え、異動や離職の際には利用者への紹介を工夫してダメージを防ぐよう配慮し、新旧職員と一緒に業務にあたるなどして引継ぎをスムーズにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外での研修へ参加できるように研修情報を知らせ、運営者が費用の負担をしている。  (外部評価) 研修内容を全職員に知らせ、希望者が参加できるよう勧め、参加者は受講内容を報告している。運営者は参加費を負担したり出張扱いとし、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加をしている。当ホームの主催するイベントに招待し、他事業所のイベントにも参加をしている。  (外部評価) 県グループホーム連絡協議会の相互研修に職員が参加し、情報交換を行っている。秋祭りに同業者を招待したり、地域のデイサービスの春祭りに利用者と一緒に訪問するなど、徐々に交流を図っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 日常の勤務時間帯には、一時間の休憩が取れるように配慮している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は、職場へ来て職員に声を掛けている。職員の資格取得への支援を行なっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談があった時は、本人に会いに行ったりグループホームへ来てもらったりして話を聞くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談があった時は、家族と会ったりグループホームへ来てもらったりして話を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談内容により、必要な支援をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用前は、本人と家族のグループホームへ見学に来てもらっている。本人の見学が難しい場合は、本人に会いに行っている。  (外部評価) 管理者が事前に訪問して本人及び家族と話し合ったり、見学してもらいながら、徐々に馴染めるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 出来る限り一緒に過ごし話をして笑ったり泣いたりし、人生の先輩から色々な事を学んでいる。  (外部評価) 職員は、人生の先輩である利用者と一緒に過ごしながら、行事やしきたりなど昔のことを教わったり、料理の味付けを教えてもらっている。また利用者から感謝やねぎらいの言葉をかけてもらうなど、学んだり、支え合う関係を築いている。	※	一緒に過ごす時間をもっと増やしていく。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の暮らしの出来事や本人の思い・希望を家族に報告している。また、家族の思いを知り協力し合って本人の暮らしを支えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族の事情を踏まえ、本人の日頃の状態を報告・相談し、本人と家族の関係がより良くなるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知り合いの人にはグループホームへ来てもらうようにしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 気分や状態の変化を注意深く見守り、利用者同士の関係を把握し交流が出来るように配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 利用が終了しても家族・本人の了解を得て時々訪ねている。店等、地域で会った時には声を掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いを把握するように努めているが、深く理解できていない事がある。  (外部評価) 機会あるごとに会話することを心がけ、困難な場合は本人の表情を見ながら、また家族から情報をもらいながら本人本位に検討している。それらの情報を生活記録に記入し、職員は情報を共有して利用者の思いや意向を把握している。	※	一人ひとりがどうしたいのか良く考えて関わる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人自身の語りや家族の面会時に、たずねたりして把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の言動から一人一人の生活リズムを理解し、把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の思いや家族の要望を聞き、ミーティングやカンファレンスで話し合い、利用者本意の介護計画を作成している。  (外部評価) センター方式の一部を取り入れたアセスメントを基に、利用者の担当職員を中心に職員が話し合い、家族に意見をもらいながら、それらを反映した介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 三ヶ月に一度見直しを行っている。状況変化があればその都度カンファレンスを開き介護計画の見直しをしている。  (外部評価) 毎日、個人記録や申し送りノートなどで確認し、3か月毎に見直しを行い、それ以前に変化が生じた場合には現状に即した新たな計画を作成して、家族のサインをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 心身状況や会話などの記録は、個別の生活記録に記入し、申し送りノートも活用しながら情報の共有をしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人・家族の状況に応じて、通院の付き添いや送迎の支援をしている。  (外部評価) 緊急時のかかりつけ医の受診に同行している。本人及び家族の要望に応じた柔軟な支援をしていく姿勢がある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議の開催で、地域の方と意見を交わし地域活動へ参加をしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向や必要性に応じて、訪問理美容や訪問歯科を利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に出席してもらい交流をしている。また、地域包括支援センター主催の事業所連絡会に出席している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医と連携をとり、医療が受けられるようにしている。家族と連絡をとり、残薬数や本人の状況などを伝え、受診の支援をしている。  (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医受診を大切に、受診結果をファイルして把握している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医・協力病院などで、認知症に関する診断や治療・相談を受けられるよう支援している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員がおり、微妙な変化を見つけ報告・相談し、日常の健康管理をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院によるダメージを極力防ぐために、度々お見舞いに行き本人・家族・病院関係者と情報を交換している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時や家族会で、看取りについての指針とホームで出来ること出来ないことの説明をしている。状態の変化時は、家族・医師・管理者で話し合い、希望を文書で確認している。  (外部評価) 現段階では終末期の看取りは行っていないが、看取りに関する指針を作成し、本人及び家族に説明している。また、家族会でもホームのできることで、できないことを説明して理解を得ている。本人の状態に応じて家族と職員、主治医など関係者が話し合い、方針を共有している。	※	重度化や終末期に向けて、入居時の早い段階から本人及び家族等との話し合いを持つことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 家族にホームで出来ること・出来ないことの説明する。本人・家族の意思の確認とかかりつけ医との話し合いを重ね、納得した最期を迎えられるよう体制を整えている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 自宅やホーム・他の施設から別の居所に移る場合は、本人の情報資料を作成し互いに伝達をしている。住み替え後も連絡や相談をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ミーティング・申し送り時や日々ケアを行う際に、話し合い点検をしている。  (外部評価) 職員はプライバシー確保の重要性を認識しており、ミーティング及び日々の申し送りで点検して、言葉かけや対応には十分配慮している。	※	馴染みの関係が馴れ合いにならないようにしていく。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 話をじっくり聴き、本人の思いを確かめている。必要な方には紙やボードの利用、身振り手振りで表現する等して説明を行い支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の体調や様子に配慮し、自分のペースで過ごせるように支援しているが、業務優先になっている時がある。  (外部評価) 一日の基本的な流れの中で、起床や食事の時間、入浴、外出など一人ひとりのペースを大切に、体調や気持ちを考慮しながら、希望にそって支援している。	※	本人の希望にそった暮らしが出来るように支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 季節や天気・その場に合った装いが出来るように支援をしている。本人の希望で地域の理美容店を利用し、出かけるのが困難な方は、訪問理美容を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の出来る事（調理や盛り付け・後片付けなど）を支援し一緒に行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るように雰囲気作りも大切にしている。  (外部評価) 料理の味見、盛り付けなど利用者と職員が一緒に行っている。食事は会話を楽しみながら和やかに食事し、後片付け等もできる利用者が一緒に行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 献立を一緒に考えたり、本人の好みおやつを出している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けや介助など、本人に合わせた支援をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 昼間の入浴ではあるが、本人の希望を聞き入浴している。入ろうとしない方には、納得して入ってもらうように声掛けをしている。  (外部評価) 週3回午後入浴を基本に、一人ひとりの体調やタイミングに合わせて入浴を支援している。苦手な利用者には、声かけを工夫して入浴を楽しめるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) その人の力が発揮できるように得意な事、やりたい事を把握し支援している。  (外部評価) 料理の下ごしらえや盛り付け、庭の草引きや野菜づくりなど、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割の支援をしている。また、誕生日、父の日・母の日、敬老の日をはじめ、花見、芋掘りなど季節ごとの楽しみの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は事業所で行っているが、希望する方は家族と相談しお金を持っている。また無くならないように確認をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 職員の方から声を掛け、出かけるように支援しているが、出る機会が少ない。  (外部評価) 車いすの利用者が多いが、本人の意向も考慮しながら近所の幼稚園へ散歩に出かけるなどして、地域の方と挨拶を交わしている。年に数回はドライブを兼ねてスーパー等に出かけ、外食を楽しんでおり、利用者の楽しみのひとつとなっている。	※	利用者の意向や状態にもよるが、外に出る機会を増やしていく。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年に数回だが食事会を設け、他の利用者や家族とともに出かけている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望により電話をかけている。ハガキが来たら本人に手渡している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間は定めておらず、都合の良い時にいつでも来てもらうよう話をしている。面会に来られた方には、笑顔で明るく挨拶をし、入りやすく過ごしやすいよう雰囲気作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の心身状況によりやむをえない場合にのみ、家族に説明をし同意を得ている。経過を観察し見直しを行っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵をかけず、出入り自由になっている。  (外部評価) 日中は鍵をかけず、チャイムで対応している。外出する利用者には職員が一緒について行くようにしており、利用者ごとの傾向を把握しながら、安全に留意している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者が過ごす同じ空間で記録などを行い、所在や様子を把握し安全に配慮している。自室や庭で過ごしている方は、時々声を掛け見守りをしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に応じて、本人が持っていたり事務所で預かったりしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) インシデントの内容を職員全員が共有し、利用者の状況によりおこりうる危険を予測し、事故防止に努めている。(個別の食事形態・居室やベッド周りと同空間の整理整頓・建物周りの掃除など)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応マニュアルはあるが、定期的な勉強会は滞っている。	※	定期的に勉強会を行う。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に非難訓練を行い災害に備えている。  (外部評価) 緊急連絡網、防災マニュアルを作成している。年1回消防署の協力のもとで避難訓練を実施し、また年3回は自主的な訓練をユニット毎に実施している。訓練後は反省会を持ち、振り返りを行っている。災害時の備えとして食料品、水、薬など必需品をリストアップし、備蓄している。	※	災害時に地域の協力が得られるよう、日頃から交流に努め、運営推進会議等を通じて協力を依頼していくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクについて家族に説明して話し合い、安全で自由な暮らしが出来るように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の状況を把握し、食欲や顔色などの体調変化を早期に発見し、看護師・医師へ報告をする。場合によっては病院受診につなげている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人別に薬の説明書をとじ、いつでも見れるようにして確認をしている。薬の変更時は、申し送りノートへ記入し、職員全員が把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 毎日、排便状況や食事・水分摂取の量を確認している。繊維質の多い食品や乳製品を取り入れ、身体を動かすなどして自然排便できるように取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、一人一人に応じた歯磨きの声掛けを行い、必要な方は介助を行っている。職員が義歯を預かり一晩洗浄を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の食事・水分摂取量を記録し、個々の状態に応じて、栄養・水分摂取ができるように支援している。  (外部評価) 食事及び水分摂取量を記録し、状態に合わせて調理に工夫したりコーヒー等で水分補給を行い、栄養摂取や水分確保の支援を行っている。献立は職員が栄養バランスに配慮して立てているが、カロリーチェックまでは行っていない。	※	献立を定期的に専門家にチェックしてもらい、栄養バランスやカロリーを把握する取組みを期待したい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防対策のマニュアルを作成している。手洗い・うがいを行い、利用者・職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日買い物へ行き、新鮮な食材を使用している。冷蔵庫・流し台等の清潔に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに椅子やプランターを置き、花を植えている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間は、明るく開放的にしてある。台所からは料理を作る音や匂いがし、居心地よく過ごせるようにしている。  (外部評価) 居間は広い庭に面しており、ソファを備えゆったりくつろげる。気になる匂いもなく、カーテンで光を調節している。ホーム全体の雰囲気家庭的で温かい空間である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓やリビング・和室など一人一人の落ち着く場所があり、思い思いに過ごしている。また、その場所で過ごせるように配慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人や家族と相談し、可能な限り使い慣れたものや家具を持ち込んでもらい使用している。  (外部評価) 居室入口には一人ひとり好みの暖簾やカーテンをかけ、テレビや鏡台など使い慣れた物、家族や本人の写真、手芸品などを飾り、シンプルではあるが本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 掃除の時など随時換気をし、利用者の状況に応じて、室温調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 段差をなくして廊下や入り口を広く取り、動きやすくしている。トイレは、車椅子・歩行器のままで入れるスペースにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各居室には、本人が見やすい高さに名札をかけ分かりやすくしている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭には季節の花や野菜を植え、収穫し調理するなど楽しんでいる。玄関や屋根付きの駐輪所に長椅子を置き、涼んだり景色を眺めたりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者とは話をし、言葉や表情から思いを判断できる事も多いが、全てを把握するには時間をかけていく必要がある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やおやつと一緒に食べ、リビングでテレビを見たり会話を楽しんでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりが思い思いのペースで過ごせるように配慮しているが、待たせたり職員さんのペースになる時がある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人が思うように動けたり相手に思いが伝わった時など、笑顔が見られ生き生きしているが、気を使ったり表情が硬い時もある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自ら自由に外へ出て過ごしたり、職員と一緒に散歩やドライブに出かけたりしているが、本人の状況により外出が難しい時もある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者それぞれにかかり付け医がいる。またホームに看護師を配置し、異常の早期発見に努め、協力医療機関と連携をとっている。緊急時には、母体の医師がすぐに駆けつけている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その時々々の状況や要望により判断を行い、安心して暮らせるように常に考えながら支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	電話や面会時、家族会等において、利用者の近況や日常生活について相談・報告をし、意見や要望も聞いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	利用者にもよるが、家族や親戚・知り合い等、訪ねてきている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議に、公民館館長・民生委員の方に出席していただき、事業所主催のお祭りに協力していただいた。また、公民館主催のイベントにも声を掛けていただいている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ストレスや身体的な負担等があるが、明るく朗らかに働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ほぼ満足していただいていると思う。しかし、共同生活の中で我慢をしていることもあると思う。少しずつでも解消できるように取り組んでいる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	おおむね満足していただいていると思うが、行き届かない所もある。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- 利用者の方の「感情を閉じ込めない」という事を大切に、笑う・泣く・怒るといった感情を自由に出せるような環境の提供を心がけている。
- 同じ空間で共に過ごし、教え教えられ・支え支えられる関係を大事にしている。
- グループホームは、田園の中にあり静かな環境。近くにスーパーや団地があり、ホームの前が通学路になっている。
- 小学校との交流もあり、生徒が学校帰りなど気軽に立ち寄っている。
- 日々、心身状況の観察を行い、早期に異常を発見し、医療関係者へ迅速に連絡を取り、重度化の阻止に努めている。
- それぞれ利用者の希望を探り尊重し、家族や地域の方と協力し合い暮らしを支えている。